

花川病院

症 例 概 要 患者：50歳代 女性

病名：脳幹膠芽腫、高血圧

入院期間：X年C月D日 ～ X年E月F日

経過：Y年A月B日頃から頭痛、A年G日から構音障害出現、H日には左不全麻痺出現し関西のK市立医療センターに救急搬送され脳幹部に腫瘍（脳幹グリオーマ疑い）を認め、関西のK大学医学部附属病院へ転院。テモゾロミド内服開始し放射線実施。X年に3回のアバスチン投与が行われX年C月D日に余命は親元で過ごしたいと当院へ入院。

内 容

当院入院後、脳腫瘍による合併症（左上下肢麻痺・視野障害・頭蓋内圧亢進症状・呼吸抑制）の可能性の様子観察。左上下肢の麻痺の悪化なく、視野障害も時々出現する程度。利尿剤にて排尿もあり、頭蓋内圧亢進状態なく痙攣等の症状もなく経過。病気の告知も受けている患者さんなので、今後の病状や退院後が心配になり涙を流されるときは看護師・MSWが傾聴し落ち着きを取り戻していた。そんな中、栄養士、料理師のミールラウンドで、患者さんが「職業はレストランの接客業で料理が好きで肉すいを作りたい。北海道でも流行ると思うから広めたい」と希望を話されていた。

現状、左麻痺・歩行はシルバーカー可能であるが支えが必要な状態。前医からの希望を花川病院でかなえたいと病棟（寄り添い看護・介護）・リハビリ（食器を持って食べられる訓練）・栄養士（肉すいの提供準備）とOur Team医療へ。まずは当院で食事として提供してみようと、栄養士と調理長で肉すいの歴史とご本人から聞いたレシピを参考にし花川病院で皆さんも楽しめる「肉すい」の提供を考え、E月J日実現し、患者さんも「美味しい」と涙あふれる笑顔で満足された。他の患者さんからも出汁が効いていてとても美味しいと評判があり、ブログにものせて、北海道で肉すいが流行るの第一歩となったのではないかと思う。

現在は、地域のケアマネさんと連携し、訪問看護・リハ、そして化学療法は道内の大学病院に通院しながら自宅で生活されている。

【入院時と退院時の評価】

<FIM>入院時：運動49点 認知30点 ⇒ 退院時：運動71点 認知34点



合計79点/126点 ⇒ 合計105点/126点

